

DJ Magazine 10月号 (2020)

Topics

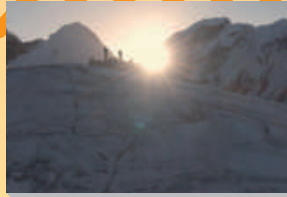


グレートヒマラヤ トレイル

「§3 ジャヌー ～神のすむ大岩壁～」

放送予定：NHK BSプレミアム・BS4Kにて同時放送
10月17日(土) 午後6:00～7:29

昨年放送した「グレートヒマラヤトレイル §1マカルー編」と「§2 エベレスト編の続編。ネパール・ヒマラヤを東西 1700 キロにわたって貫く、世界で最も高いトレッキング・ルート、それが「グレートヒマラヤトレイル」だ。「誰も見たことがない風景」を撮影するためにこのトレイルを歩くのは、前回同様、石井邦彦と中島健郎の2人のカメラマン／登山家。ドローン、360°カメラなど最新機材を駆使し、心の震える絶景を届けてくれる。今回はトークに、彼らの「山仲間」、イモトアヤコさんも参加。

製作スタッフの
つぶやき

今年3月から4月、新型コロナウイルス禍のさなか、取材に飛び出しました。ヒマラヤ山中まで感染拡大の影響が及んでくる状況のなか、複雑な気持ちで取材してきましたが、帰国後、編集が進むうちに、コロナ禍の今こそヒマラヤの大自然の素晴らしさを観ていただきたいと強く思うようになりました。是非、ご覧ください。

ディレクター山田和也

グレートヒマラヤ トレイル

「§4 カンチェンジュンガ ～"五大宝蔵"を求めて～」

放送予定：NHK BSプレミアム・BS4Kにて同時放送
10月24日(土) 午後6:00～7:29

Topics



BS1スペシャル

「ザ・リアル・ボイス～ダイナーからアメリカの本音が聞こえてくる2020～(仮)」

放送予定：NHK BS1 11月1日(日) 午後10:00～10:50・午後11:00～11:49



11月、世界の行方を占う、アメリカ大統領選が行われる。新型コロナの感染拡大、白人警官による黒人男性死亡事件に端を発したブラック・ライブス・マターなど、混沌の中にあるアメリカで、人々は、何を思い、何を願い、未来を託す選択を下そうとしているのだろうか。庶民の本音を聞きに訪れるのは「大衆食堂＝ダイナー」だ。今回はコロナ時代に対応し、オンラインのリモート操作で自在に移動できる「分身ロボット」を現地に派遣。ダイナーの客に、日本から直接質問をぶつける。マスクをめぐる共和党と民主党が対立を深めるマイアミ、ブラック・ライブス・マターの震源地ミネアポリス、ラストベルトの街ランシング、観光客が途絶えたラスベガス・・・そこから聞こえてくるリアルボイスから、分断が深刻化するアメリカがどこに向かおうとしているのかを探る。



News 受賞のお知らせ!!

アメリカ国際フィルム・ビデオ祭

ゴールド・カメラ賞

ドキュメンタリー・社会問題部門 第1位

NHK BS1

BS1スペシャル「ジェイクとシャリース 僕は歌姫だった」

C:満若 勇咲/ジェイソン・パハリルヨ

D:二宮 寛子 P:煙草谷 有希子



歌手のシャリースはお気に入りの一人でした。「彼」になった今も歌はとても素敵で、取材中は聞き放題!さらに賞までいただけてとても嬉しいです。苦労話はいくつもありますが、一緒にフィリピンに乗りこんだ煙草谷 P、NEP 常木 P、国際共同制作を進めてくださった NHK 安田 P、ツプリでフラフラの私を公私ともに支えてくれた夫の満若カメラマン、他にもたくさんの方の応援があって完成できました。皆さんに感謝申し上げます。 ディレクター 二宮寛子



第36回ATP賞テレビグランプリ

情報・バラエティ部門 優秀賞

NHK BSプレミアム

スイーツ列車紀行「オリエント急行ライン・お菓子秘話 西欧の魅惑/東欧の甘美」

C:角山 正樹

D:酒井 克 P:新津 総子



大好物のスイーツを食べながら大好きな鉄道に乗り続ける。周囲から「それ仕事なの?」「ギャラいらないだろ」という声もチラホラ。確かにその通りです。ディレクターってホント幸せです。酒が飲めない私にとって仕事終わりに心と身体を癒してくれるものが糖分であり、人生を豊かにするのが鉄分です。今後もこの2大栄養バランスは崩さずに新たな成分も振り入れていきたいです。 ディレクター 酒井克



第36回ATP賞テレビグランプリ

ドキュメンタリー部門 奨励賞

NHK BS8K

「聖なる巡礼路を行く カミーノ・デ・サンティアゴ1500キロ〜」

C:高野 大樹

D:御牧 賢秀 P:柚口 三奈子



賞の意味を調べて驚いた。「その頑張りを評価、今後への期待を込めて贈られる賞。」そろそろ引退かと思っていた老兵にとっては、とても励みになります。でも、スタッフ丸となって頑張ったのは事実。8Kカメラという手間のかかる機材に挑戦した技術陣。日々予定がコロコロ変わるロケに愚痴一つ言わず対応してくれたコーディネーター陣には、頭が下がります。そして何より、取材を受けていただいた沢山の巡礼者の方々に感謝します! ディレクター 御牧賢秀



速報

山崎裕カメラマンが文化庁映画功労賞を受賞しました。



【受賞理由】

昭和38年より撮影助手となり、記録映画『日本の華 浮世絵肉筆』(昭42)でカメラマンデビュー後、多くの記録映画、テレビドキュメンタリー、CMを担当。被写体との距離の取り方に優れ、美しくリアルに撮ることをモットーに、多くの監督と組んで劇映画の撮影にも手腕を発揮し、『Torso トルソ』(平21)では監督も務めた。主な作品に是枝裕和監督『ワンダフルライフ』(平11)、『誰も知らない』(平16)、河瀬直美監督『2つ目の窓』(平26)など。平成2年には当時代表取締役を務める株式会社ドキュメンタリー・ジャパンから技術部を独立させた株式会社いちまるよんを立ち上げて技術スタッフを育て、後進の指導にも尽力、その功績が讃えられた。

連載リレーコラム

「私のデビュー作」

第6回

ディレクター 新井章仁

番組名 / 地球発19時 ~密着!テキヤ軍団・北海道巡業~ (毎日放送|1988年)



かれこれ30年以上前になるデビュー戦。祭りを求めて夏の北海道を巡業する「みちのく・鳴子のテキヤ一家」に密着した。祭りが終わると次の祭りへ翌朝までに。ハードなロケの中、親分子分の絆を描こうと無我夢中で撮りまくった。自分は「すねに傷持つ」同年代。強面で世間からは敬遠されがちな若者に、フィルターをかけずに純粋に向き合った。カメラが回ってないところでの付き合いにも精一杯打ち込んだ。その姿勢は、ある先輩に教えて貰ったことだ。『ドキュメンタリーは冰山のようなもの。水面から出ていない部分が大切だと。そして、政治家だろうが幼稚園児だろうが、同じ目線に立てと。』その教えは今でも大切にしていることだ。ところで、今頃、彼らは何してるんだろうなあ?

06

次回の執筆者

プロデューサー 新津総子さん

ディレクター経験も持つ新津さん。DもPもどんなデビューだったのか? 興味津々です。

制作中の番組



その他、多岐に渡る作品を制作中です! 詳細はドキュメンタリー・ジャパンのHPまで。

編集後記

コロナに翻弄され、心身の疲弊と共に漠然とした不安をぬぐえないまま半年が過ぎました。番組制作自体、“不要不急”なんじゃないかと、厭世的な気持ちのとき、たまたま放送された番組を見た友人からメールをもらいました。「元気をもらったよ、ありがとう」。加齢とともに緩くなった涙腺崩壊!己の単純さに呆れつつ、ヨロコビが全身を駆け巡りました。と、養老孟司先生の新聞への寄稿に目が留まりました。「人生は本来不要不急」。…至極納得。 (M.Y)

Design by HARIMA koutarou